

「家がいいね」 第60号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2009. 5. 11

つながる力になりたい

藤とその花は、拠り所とする樹や棚が必要です。樹にとっては迷惑な蔓(つる)ですが、藤蔓は強靱なロープとして働きます。私の遠藤の姓の中にも藤があります。人と人をつなぐことをしたいと思う心の底には、こんな含みがあるのでしょうか。



人に会いに行く

4月の最終の日曜日に、北勢の山里を訪ねて行きました。いなべの行願寺では、御開帳の後に、檀家衆は落語を楽しんでおられました。カメラを左端で構えているのが住職の田代俊孝さん。名古屋の同朋大教授でもあり生死について深く教えておられます。

東員町の小田朝繁さんの家もお訪ねしました。直接見る仕事場の雰囲気は納得するものがありました。前回に受け取った仏像画よりも更に大きな作品を頂きましたが、そのお披露目はまたいずれ。人に会うために、自(みずか)ら赴(おもむ)くのが、一番の感慨を生むものだと思います。



内藤いづみさんの講演を聴く機会

7月4日(土) 13時から津の総合文化センターで無料。事前申込制、059・233・1151まで連絡。「内藤いづみ」で検索して医院のホームページを見ると、素晴らしい御活躍の内容です。



「終わりよければ」いせの会のお知らせ

5月22日(金) 19時~21時

伊勢市観光文化会館4階 会議室 参加無料

「エンディングノートの実際」

花井慶太さん (大阪・豊中市 行政書士)

エンディングノートは、遺言書のような法的効力を持つものではありません。しかし自分の意思が伝わるための大切な整理をすることは出来ます。その実際のノートの例をお話いただきます。

6月27日(土) 18時~20時半

いせトピア 第2学習室

参加無料

「地域でのリビングウイル活動」

長江浩幸さん (名古屋 南生協病院 医師)

救急医療や延命処置に、かねてから思っている自分の意思を反映する事にも準備が必要です。言い出しにくい選択を、肝心の医療者にどのように伝えたら良いのか、実践されておられます。

8月23日(日) 13時~16時半 無料

観光文化会館4階 大会議室 シンポジウム

「皆で書いてみよう 私のエンディングノート」
さあ実際に、自分で伝えたい事を書くことから、自分の人生の振り返りが始まります。その次には、今住んでいるこの伊勢の街を、少しずつ最期まで住みやすいものにする事も考えましょう。

細谷亮太さんの講演を聴く機会

みえ生と死を考える市民の会の講演会として、7月18日(土) 13時から津の総合文化センターで開かれます。一般前売り800円。

「小児科医が考える生と死」

の題で話されますが、親たち大人たちの心にも強く響く講演になると思います。絵本に俳句に、細谷さんの世界は広がっています。そのチケットとチラシは当院にもあります。

申し訳ありませんが、18日は臨時休診します



 Ise home care clinic
いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>